

礼拝メッセージフィードバック

今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2023.7.10-16

BUT GROW IN THE GRACE AND KNOWLEDGE OF OUR
LORD AND SAVIOR JESUS CHRIST. TO HIM BE
GLORY BOTH NOW AND FOREVER! AMEN. II PETER

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

9:10 さて、ダマスコにアナニアという名の弟子がいた。主が幻の中で「アナニアよ」と言われたので、彼は「主よ、ここにおります」と答えた。

9:11 すると、主はこう言われた。「立って、『まっすぐ』と呼ばれる通りに行き、ユダの家にいるサウロという名のタルソ人を訪ねなさい。彼はそこで祈っています。

9:12 彼は幻の中で、アナニアという名の人が入って来て、自分の上に手を置き、再び見るようにしてくれるのを見たのです。」

9:13 しかし、アナニアは答えた。「主よ。私は多くの人たちから、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。

9:14 彼はここでも、あなたの名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから与えられています。」

9:15 しかし、主はアナニアに言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に連ぶ、わたしの選びの器です。

9:16 彼がわたしの名のためにどんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示します。」

9:17 そこでアナニアは出かけて行って、その家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウロ。あなたが来る途中であなたに現れた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見るようになり、聖霊に満たされるためです。」

9:18 するとただちに、サウロの目から鱗のような物が落ちて、目が見えるようになった。

そこで、彼は立ち上がってバプテスマを受け、

9:19 食事をして元気になった。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいて、
9:20 ただちに諸会堂で、「この方こそ神の子です」とイエスのことを宣べ伝え始めた。
9:21 これを聞いた人々はみな驚いて言った。

「この人はエルサレムで、この名を呼ぶ人々を滅ぼした者ではないか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではなかったか。」

9:22 しかし、サウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人々をうろたえさせた。

福音の宣教と、その神学のために偉大な仕事をしたパウロは、それに最もふさわしくない人でした。神様は多くの場合そのような人を用いて、ご自身の主権を明かになさいます。どんな人も主の導きに期待して信頼しましょう。

その場合、単に個人の思い込みの場合もありますから、主はそこで、共同体に御心を表わしたのです。すなわちアナニアにも現れて、パウロを受け入れるようにということ、またパウロに関して主が持っておられるビジョンを伝えただけです。

教会の兄弟姉妹に、主から与えられている思いを分かち合ひましょう。その中で、主の御心が明かになったなら、共に前進しましょう。

ただし、それは主の聖なるご計画のためであって、人間の打算や楽しみのためではありません。「彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」と、主が語られたように、自分の利益よりも主の恵の前進を喜ぶ動機によって、成り立つものであることも忘れてはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



9:23 かなりの日数がたち、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、
9:24 彼らの陰謀はサウロの知るところとなった。彼らはサウロを殺そうと、昼も夜も町の門を見張っていた。
9:25 そこで、彼の弟子たちは夜の間に彼を連れ出し、籠に乗せて町の城壁伝いに降り降ろした。
9:26 エルサレムに着いて、サウロは弟子たちの仲間に入ろうと試みたが、みな、彼が弟子であるとは信じず、彼を恐れていた。
9:27 しかし、バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちのところに連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に語られたこと、また彼がダマスコでイエスの名によって大胆に語った様子を彼らに説明した。
9:28 サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の御名によって大胆に語った。
9:29 また、ギリシア語を使うユダヤ人たちと語ったり、論じたりしていたが、彼らはサウロを殺そうと狙っていた。
9:30 それを知った兄弟たちは、彼をカイサリアに連れて下り、タルソへ送り出した。
9:31 こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり築き上げられて平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。

あれだけ敵対していたサウロが、イエスを信じたのですから、人々はそこに神の力を認めて信仰に入っても良さそうなものです。しかし人々は頑なにサウロを否定し迫害しました。信じない人はこのようなもので、神様のあわれみがなければ、到底自分の力で方向転換することはできないのです。

迫害にも関わらずサウロは宣教し続けましたが弟子たちは迫害者であった彼を恐れていました。人間の感覚では、あきらめてしまうような状況でしたが、サウロは「大胆」でした。

それは主の召しとご計画がはっきりしていたからです。私たちも自分の進むべき道と、なすべき働きを明確に教えていただきましょう。それがほんやりしていると、困難のときに迷いと不安が起こり、進めなくなってしまう。はっきりしているなら、希望を持ってやり遂げることができます。

またそれは、バルナバという励まし手がいました。彼はサウロを責任を持って「引き受けて」、共同体の中で輝けるようにしてあげました。単にやさしくしてあげたというのではなく、主の御心を知り、サウロに与えられている人生を、歩めるようにしてあげようと行動したのです。

教会にはこのようなバルナバ役が必要です。特に救われたばかりの人、悩みや困難を抱えている人などにはそうです。信仰の先輩にあたる人は、単に優しくだけでなく主の道に歩めるように、バルナバの心を持って交わりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 水曜

使徒



9:32 さて、ペテロがあらゆるところを巡回していたときのことであった。彼は、リダに住む聖徒たちのところにも下って行った。

9:33 そこで彼は、アイネアという名で、八年間床についている人に会った。彼は中風であった。

9:34 ペテロは彼に言った。「アイネア、イエス・キリストがあなたを癒やしてくださいませ。立ち上がりなさい。そして自分で床を整えなさい。」すると、彼はただちに立ち上がった。

9:35 リダとシャロンに住む人々はみなアイネアを見て、主に立ち返った。

9:36 またヤッファに、その名をタビタ、ギリシア語に訳せばドルカスという女の弟子がいた。彼女は多くの良いわざと施しをしていた。

9:37 ところが、そのころ彼女は病気になって死んだ。人々は遺体を洗って、屋上の部屋に安置した。

9:38 リダはヤッファに近かったので、ペテロがそこにいと聞いた弟子たちは、人を二人、彼のところに遣わして、「私たちのところまで、すぐ来てください」と頼んだ。

9:39 そこで、ペテロは立って二人と一緒に出かけた。ペテロが到着すると、彼らはペテロを屋上の部屋に案内した。やもめたちはみな彼のところに来て、泣きながら、ドルカスが一緒にいたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。

9:40 ペテロは皆を外に出し、ひざまずいて祈った。そして、遺体の方を向いて、「タビタ、起きなさい」と言った。すると彼女は目を開け、ペテロを見て起き上がった。

9:41 そこで、ペテロは手を貸して彼女を立たせた。そして聖徒たちとやもめたちを呼んで、生きている彼女を見せた。

9:42 このことがヤッファ中に知れ渡り、多くの人々が主を信じた。

9:43 ペテロはかなりの期間、ヤッファで、シモンという皮なめし職人のところに滞在した。

神様から宣教のために動員されることを、あなたはどのように感じているでしょうか。または使徒の働きを読んで、神の国が拡大することは喜ばしいことと思えるでしょうか。何か神様の都合が優先されるようで、この書が魅力的に感じない人もあるかもしれません。

もしも神様が人を愛することなく、ただ信者を増やすために働かれてのなら、私たちの感じ方は全く違ったものとなるでしょう。しかし、神様の宣教は人を愛して行われてきたものです。

救いそのものが神様の愛ですから、その宣教には神様の愛が伴うのです。この箇所が挿入されているということは、そういうことでしょう。神様は病む人、死に悲しむ人に希望をお与えになるです。その完全なものが永遠のいのちです。

ですから私たちは、単に信者獲得のために伝道しているわけではありません。何とか神様の癒しと命の喜びを持ってもらいたいのです。その人が救われてメリットがあるかどうかなど考えるようでは、本当の動機とは言えません。ただ、その人を愛して、その人の上に神様の愛がもたらされるために伝道しましょう。

一方、神様の愛のわざによって人々は神様を信じます。もっとも大きな愛のみわざは十字架ですから、救いこそが癒しの最終目的なのです。ですから癒されたクリスチャンはそのみわざを伝えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13日 木曜

使徒



10:1 さて、カイサリアにコルネリウスという名の人がいた。イタリア隊という部隊の百人隊長であった。

10:2 彼は敬虔な人で、家族全員とともに神を恐れ、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。

10:3 ある日の午後三時ごろ、彼は幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。その御使いは彼のところに来て、「コルネリウス」と呼びかけた。

10:4 彼は御使いを見つめていたが、恐ろしくなって言った。「主よ、何でしょうか。」すると御使いは言った。「あなたの祈りと施しは神の御前に上って、覚えられています。」

10:5 さあ今、ヤッファに人を遣わして、ペテロと呼ばれているシモンという人を招きなさい。

10:6 その人は、シモンという皮なめし職人のところに泊まっています。その家は海辺にあります。」

10:7 御使いが彼にこう語って立ち去ると、コルネリウスはしもべたちのうち二人と、彼の側近の部下のうち敬虔な兵士一人を呼び、

10:8 すべてのことを説明して、彼らをヤッファに遣わした。

10:9 翌日、この人たちが旅を続けて、町の近くまで来たころ、ペテロは祈るために屋上に上った。昼の十二時ごろであった。

10:10 彼は空腹を覚え、何か食べたいと思った。ところが、人々が食事の用意をしているうちに、彼は夢心地になった。

10:11 すると天が開け、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来

るのが見えた。

10:12 その中には、あらゆる四つ足の動物、地を這うもの、空の鳥がいた。

10:13 そして彼に、「ペテロよ、立ち上がり、屠って食べなさい」という声が聞こえた。

10:14 しかし、ペテロは言った。「主よ、そんなことはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことがありません。」

10:15 すると、もう一度、声が聞こえた。

「神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない。」

10:16 このようなことが三回あってから、すぐにその入れ物は天に引き上げられた。

神様はご自身の計画を進められる方ですが、その場合にはいくつかのみわがが互いに証言するかのように行われます。

1つは聖書のみことばです。この箇所では異邦人の救いがテーマですが、このことについてすでに旧約聖書では、アブラハムが「すべての国民の父と呼ばれる」と書かれています。

2つめには現実の出来事です。この場合はコルネリオに御使いが語ったという事実、さらにペテロも幻を見たという事実がありました。

3つめには複数の証し人です。神の御心が単に個人的な思い込みでないと分かるためです。それは単なる同調者とは違います。別々に語られ、それが群れ全体の共通理解になって行くというものです。ここではコルネリオとペテロです。

また忘れてはならないことは、コルネリオもペテロも敬虔で主のために生きていたということでしょう。それなくして主は信頼して語ることはなさいません。

主のみわがが進むときにはこれらに心を留めながら、御心を共有しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 金曜

使徒



10:17 ペテロが、今見た幻はいったいどう
いうことだろうか、と一人で思い惑っている
と、なんと、コルネリウスから遣わされた人
たちがシモンの家を捜し当てて、その門口に
立ち、
10:18 声をかけて、「ペテロと呼ばれている
シモンはここに泊まっていますか」と尋ねて
いた。
10:19 ペテロは幻について思い巡らしていた
が、御霊が彼に言われた。「見なさい。三人
の人があなたを訪ねて来ています。
10:20 さあ、下に降りて行き、ためらわずに
彼らと一緒に行きなさい。わたしが彼らを遣
わしたので。」
10:21 そこでペテロは、その人たちのところ
に降りて行って、言った。「あなたがたが探
しているのは、この私です。どんなご用でお
いになったのですか。」
10:22 すると、彼らは言った。「正しい人で、
神を恐れ、ユダヤの民全体に評判が良い百人
隊長コルネリウスが、あなたを自分の家に招
いて、あなたから話を聞くようにと、聖なる
御使いから示されました。」
10:23 それでペテロは、彼らを迎え入れて泊
まらせた。翌日、ペテロは立って、彼らと一
緒に出かけた。ヤッファの兄弟たちも数人同
行した。
10:24 そして次の日、ペテロはカイサリアに
着いた。コルネリウスは、親族や親しい友人
たちを呼び集めて、彼らを待っていた。
10:25 ペテロが着くと、コルネリウスは迎え
に出て、足もとにひれ伏して拝んだ。
10:26 するとペテロは彼を起こして、「お立

ちください。私も同じ人間です」と言った。
10:27 そして、コルネリウスとことばを交わ
しながら家に入り、多くの人が集まってい
るのを見て、
10:28 その人たちにこう言った。「ご存じの
とおり、ユダヤ人には、外国人と交わった
り、外国人を訪問したりすることは許され
ていません。ところが、神は私に、どんな
人のことも、きよくない者であるとか汚れ
た者であるとか言うてはならないことを、
示してくださいました。
10:29 それで、お招きを受けたとき、ためら
うことなく来たのです。そこでお尋ねしま
すが、あなたがたは、どういうわけで私を
お招きになったのですか。」
10:30 すると、コルネリウスが言った。「四
日前のこの時刻に、私がか家で午後三時の祈
りをしていますと、なんと、輝いた衣を着
た人が私の前に立って、
10:31 こう言いました。『コルネリウス。あ
なたの祈りは聞き入れられ、あなたの施し
は神の前に覚えられています。
10:32 だから、ヤッファに人を送って、ペテ
ロと呼ばれるシモンを招きなさい。この人
は海辺にある、皮なめし職人のシモンの家
に泊まっています。』
10:33 それで、私はすぐにあなたのところに
人を送ったのです。ようこそおいでくだ
さいました。今、私たちはみな、主があな
たにお命じになったすべてのことを伺おう
として、神の御前に出ております。』

異邦人と言われる人々、すなわちユダヤ人以外
の人々にも救いが及ぶというすばらしいみわざが
展開しようとしています。そのような主の出来事

にたずさわれるのは光栄なことです。私たち
は現代も教会を通して、その光栄が与えられ
ています。

ここで彼らから学べることは、自分の誉れ
を求めているということ。ペテロは異
邦人である3人にも礼を尽くし、またコルネ
リオもペテロを最大限に敬い、そしてペテロ
も全く謙っています。

主の前進の前には誰もが謙遜でありましょ
う。異邦人と言われる人々、すなわちユダヤ
人以外の人々にも救いが及ぶというすばらし
いみわざが展開しようとしています。そのよ
うな主の出来事に携（たずさ）われるのは光
栄なことです。私たちは現代も教会を通して、
その光栄が与えられています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:34 そこで、ペテロは口を開いてこう言った。「これで私は、はっきり分かりました。神はえこひいきをする方ではなく、
10:35 どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人は、神に受け入れられます。
10:36 神は、イスラエルの子らにみことばを送り、イエス・キリストによって平和の福音を宣べ伝えられました。このイエス・キリストはすべての人の主です。

10:37 あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダや全土に起こった事柄をご存じです。

10:38 それは、ナザレのイエスのことです。神はこのイエスに聖霊と力によって油を注がれました。イエスは巡り歩いて良いわざを行い、悪魔に虐げられている人達をみな癒やされました。それは神がイエスとともにおられたからです。

10:39 私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムで行われた、すべてのことの証人です。人々はこのイエスを木にかけて殺しましたが、

10:40 神はこの方を三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。

10:41 民全体ではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちに現れたのです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられた後、一緒に食べたり飲んだりしました。

10:42 そしてイエスは、ご自分が、生きている者と死んだ者のさばき主として神が定めた方であることを、人々に宣べ伝え、証しするように、私たちに命じられました。

10:43 預言者たちもみなイエスについて、こ

の方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられると、証ししています。」

10:44 ペテロがなおもこれらのことを話し続けていると、みことばを聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。

10:45 割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたことに驚いた。

10:46 彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。するとペテロは言った。

10:47 「この人たちが水でバプテスマを受けるのを、だれが妨げることができるでしょうか。私たちと同じように聖霊を受けたのですから。」

10:48 ペテロはコルネリウスたちに命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。それから、彼らはペテロに願って、何日か滞在してもらった。

「このイエス・キリストはすべての人の主です。」「預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられると、証ししています。」とありますから、イエス様は全人類のために十字架にかかったのです。それをペテロが証言しています。

クリスチャンの少数派には、「神はイスラエルを救おうとなさったが、イスラエル人がそれを拒んだので、凶らずも異邦人に救いが移っていった」ということを主張する人々がいます。それは聖書全体の理解からはずれていることがわかるでしょう。ペテロたちは初めは「イスラエルの救い」を中心にした考えでしたが、ここに来て神様の始めからのご計画を知ったのでした。

それはイスラエル人にとってはこれまでのプライドを捨てなければならぬことでしたが、「

聖霊を受けたのですから」とあるように、聖霊に従うことを選びました。私たちがプライドを捨てて主に聞く時に、主の御計画を教えたいえだくことができるはずです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:1 さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人たちも神のこゝばを受け入れたことを耳にした。

11:2 そこで、ペテロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちが、彼を非難して、

11:3 「あなたは割礼を受けていない者たちのところに行って、彼らと一緒に食事をした」と言った。

11:4 そこで、ペテロは彼らに事の次第を順序立てて説明した。

11:5 「私はヤッファの町で祈っていました。すると、夢心地になり、幻を見ました。大きな敷布のような入れ物が、四隅をつり下げられ、天から降りて来て、私のところに届いたのです。

11:6 その中をよく見ると、地の四つ足の動物、獣、這うもの、空の鳥が見えました。

11:7 そして、『ペテロよ、さあ、屠って食べなさい』と言う声を聞きました。

11:8 しかし私は、『主よ、そんなことはできません。私は、きよくない物や汚れた物を、まだ一度も口に入れたことがありません』と言いました。

11:9 すると、もう一度天から声が返って来ました。『神がきよめた物を、あなたがきよくないと言ってはならない。』

11:10 このようなことが三回あって、すべての物が再び天に引き上げられました。

11:11 すると、なんとちょうどそのとき、三人の人が私たちがいた家の前に立っていたのです。カイサリアから私のところに遣わされた人たちでした。

11:12 そして御霊は私に、ためらわずにその人たちと一緒に行くように言われました。

そこで、ここにいる六人の兄弟たちも同行して、私たちはその人の家に入りました。

11:13 すると、その人は、御使いが自分の家の中に立っているのを見たこと、そして次のように語ったことを私たちに話してくれました。『ヤッファに人を遣わして、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。

11:14 その人が、あなたとあなたの家の者たち全員を救うことばを、あなたに話してくれます。』

11:15 そこで、私が話し始めると、聖霊が最初に私たちの上に下ったのと同じように、彼らの上に下ったのです。

11:16 私は主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは聖霊によるバプテスマを授けられる』と言われたことばを思い起こしました。

11:17 ですから、神が、私たちが主イエス・キリストを信じたときに私たちに下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら、どうして私などが、神がなさることを妨げることができるでしょうか。』

11:18 人々はこれを聞いて沈黙した。そして「それでは神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。

神様のわざが進むときには、時として信仰の間からも批判や反対者が起こります。しかしそれは一致のためのプロセスです。皆が主のために生きようとするなら、必ずキリストの体が生かされるような方向に一致できるものです。

ペテロは反対者に対して私心を持たずに、ただ

神のみわざの証しをしました。「ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは、聖霊によってバプテスマを授けられる。」というみことば、と主のみわざ、そして2人に与えられた一致です。

それで非難していた人々も、主のみこころを知ることができましたし、その結果みな一致し、さらには「神をほめたたえた」のです。ペテロにはそれで十分でした。非難されることは不愉快ですが、私心を持たずに神の御心になることを喜びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

